

慶応義塾大学 看護学部 傾向と対策

1. 過去の最低点

2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	2026 年
273(54.6%)	297(59.4%)	270(54.0%)	310(62.0%)	294(58.8%)	280(56.0%)	271(54.2%)	259(51.6%)

*科目間の不公平をなくすため統計的な処理をしているようです。

2. 配点

英語 300 点 数学、化学、生物から 1 科目選択 200 点

★小論文も課されますが、こちらは 2 次試験で使用されます。こちらの最低点などは公表されていません。

3. 特筆すべき出題範囲について

★数学 A の出題範囲に「人間と数学の活動」は含まれておりません。

★数学 B の出題範囲に「統計的な推測」が含まれています。

★数学 C に「平面上の曲線と複素数平面」が含まれています。2026 年にはどちらの分野も出題されました。

4. 学習について

試験時間は 80 分で大問 5 問を解きます。はじめ 2 つの大問は小問集合となっています。ほとんどは穴埋め式となっています。途中や最後で記述式の問題が少し追加されるというスタイルです。

はじめにたくさんの小問集合が出題されます。ほとんどが基本的な問いとなっていますので、ここで 8、9 割程度確保できるかが勝負となります。3 番 4 番 5 番ではスケールの大きい問題を解きますが、時間的に全て解くのは難しいかもしれません。そこまで難しいことはないので、ここで 6、7 割程度を埋めるというのが理想です。

出題分野は多岐に渡りますが、問題は数学 C です。1A2B+ベクトル受験がほとんどの中、「平面上の曲線と複素数平面」が課されて、実際に出題されています。「平面上の曲線」については図形の式、焦点、漸近線あたりは暗記しておきたいです。あとはほとんどが図形と方程式と同様です。「複素数平面」については、絶対値の計算やド・モアブルの定理の運用、回転だけはおさえておきたいです。この辺は難しくありません。

また特筆すべきは「確率分布と統計的な推測」です。近年、統計の問題を大問においています。1A のデータ分析だけでなく数学 B の統計の分野もきっちり対策しておきたいです。最近ではそこまで難しい問いはありません。共通テストのレベルが解ければ十分対応できます。こちらで練習するとよいでしょう。

おすすめの学習法をお伝えします。

①『青チャート』（レベル 4 まで）『Focus Gold』（レベル 3 まで）『LEGEND』（レベル 3 まで）『数学 1・A 基礎問題精講』『数学 II・B+ベクトル基礎問題精講』『Super Quick I +A』『Super Quick II・B・C（ベクトル）』といった網羅系参考書をこなしましょう。例題が解けるようになることが目標です。数学が苦手である生徒さんに対しては『Super Quick』をおすすめします。

時間のない受験生は『Super Quick』→『文系の数学 重要事項完全習得編』と学習するとよいでしょう。

②『大学への数学スタンダード演習』『文系の数学 実践力向上編』『理系数学の良問プラチカ 数学 I A II BC』といった問題集で演習を積むとよいでしょう。

③「確率分布と統計的な推測」の分野に対して共通テストの過去問で練習しておきましょう。5 年分くらいは解いておきたいです。

④過去問演習に取り組みます。特に小問集合で点数が稼げるかが重要です。特に 30 分以内にはじめの大問 2 つで 8、9 割埋められるよう練習してください。そこで苦手な分野を把握したらまた参考書に戻って確認をします。全体として時間が少ないですので、時間内に全部解くというよりは、いかに効率よく点数を稼ぐかを意識して過去問演習に取り組んでください。過去問は赤本や東進の過去問データベースで見ることができます。

5. 過去の出題問題と難易度

過去に出題された分野と難易度を以下に示します。

A・・・完答必須です B・・・合格の明暗を分けそうです C・・・方針をとらえて部分点を得たいです

D・・・難しいです。少しでも部分点がとれたら。 E・・・できなくても仕ないです

2021 年 目標 7 割

1 小問集合

(1) 式と証明 A

- (2) 三角関数 AB
 (3) 指数関数 AB
 (4) 数列 AB
 (5) 整数 B
 (6) 複素数と方程式 B

② 小問集合

- (1) 確率 AB

- (2) 図形と方程式 B

- (3) 2次関数 C 時間内にはやや厳しいでしょう。学習としては良い問題ですが。

③ データ分析 B

(1)の箱ひげ図は選びやすいです。(2)の箱ひげ図では自分で和を計算して選ぶことになります。その方針が素早くつかめたかです。(3)の平均値では丁寧に平均の式をたてて計算で考えます。中央値については大丈夫でしょう。

④ 空間ベクトル B

③まではスムーズに解きたいです。④の正三角形の処理は多々ありますが、本問では単純に長さが等しいで攻めるのがよいという方針がたてられたかどうかです。他は特に難しい問いはありません。

③ 微分積分 BC

微積分学の基本定理で、公式が分かっている(1)は簡単です。(2)では条件から $f(t) = a(t-1)(t-2)$ と設定できるかが大切です。時間的に解き切れた受験生は少ないでしょうが、学習としては良い問題です。

総評

小問集合は例年通り基本問題でした。後半ではデータ分析が出題されているのは特筆すべきところです。慶應の医歯薬系ではデータ分析がよく出題されるので、基本公式や資料の読み取りには慣れておきましょう。

2022年 目標7割

① 小問集合

- (1) 指数対数 A

- (2) 指数対数 A

- (3) 三角関数 A

- (4) 確率 B 最後の条件つき確率では2,3,5が出るときだと素早くとらえられたかどうかです。

- (5) 複素数と方程式 AB

② 小問集合

- (1) 図形と方程式 AB

- (2) 数列 AB

- (3) 整数 B

③ データ分析 B

(2)はいわゆるデータの変換です。 $y = ax + b$ の変換において、 $\bar{y} = a\bar{x} + b$ 、 $V_y = a^2V_x$ となることをおさえられているかです。データの変換はデータ分析でよく出題される内容です。下表を参考にしてください。

	$X = ax + b$	$Y = cy + d$
平均	$\bar{X} = a\bar{x} + b$	$\bar{Y} = c\bar{y} + d$
分散	$V_X = a^2V_x$	$V_Y = c^2V_y$
標準偏差	$S_X = a S_x$	$S_Y = c S_y$
共分散	$C_{XY} = ac \times C_{xy}$	
相関係数	$r_{XY} = \begin{cases} r_{xy} & (ac > 0) \\ -r_{xy} & (ac < 0) \end{cases}$	

④ 空間ベクトル AB

特筆して難しいところはありません。基準のベクトルで表して、基底で計算というものです。

③ 微分積分 B

(3)の面積は特に工夫はなく積分を2つに分ける、上から下を引いて積分という基本的操作で解けます。最後は前年も出題されていた微積分学の基本定理です。

総評

出題分野は前年度と同様でした。特筆して難しいところはなく、例年より高得点となったでしょう。

2023年 目標7割

① 小問集合

- (1) ベクトル B 後半は交点の位置ベクトルの特定係数比較バージョンです。適度に差が出たでしょう。

- (2) 場合の数 AB

- (3) 複素数と方程式 A

- (4) 指数対数 AB

- (5) 複素数と方程式、数列 AB 剰余の定理の応用です。



- ② 小問集合
(1) 三角関数 AB
(2) 整数 B
(3) 数列 AB

③ 図形と計量 B

⬇で差が出そうです。直前に面積の問があることから面積を違う視点で立式してごらんという意図が見えたかどうかです。他の方向性でいくと計算が煩雑になってしまいます。

④ 微分積分、図形と方程式 BC

頻出の絶対値を含む関数と微分積分です。グラフを素早くとらえます。面積の計算は特に工夫はないのでガリガリ計算します。積分区間の片方が 0 なので計算はそこまで辛くありません。最後は線形計画法です。最大値は簡単です。最小値は接するときですが、どこで接するときか把握するのが分かりづらいでしょうか。

③ データ分析 C

(2)ができていない人が大半でしょう。Σの中を展開すればよいのですが、文字が多く抽象的に感じた受験生は多そうです。時間的にも捨ててしまった受験生が多いと思われます。

総評

難易度は例年通りです。特筆して難しい問題がないのも例年通りです。

2024 年 目標 7 割

① 小問集合

- (1) 確率 B ①のところは出来が悪いでしょうか。
(2) 三角関数 AB 3 倍角の公式は覚えましょう。 $\sin 3\theta = 3\sin\theta - 4\sin^3\theta$ で cos の方は符号を変えます。
(3) 指数対数 AB
(4) 図形と方程式 AB 接線の方程式を要求されているわけではないのに注意します。図形的に攻めます。

② 小問集合

- (1) ベクトル B ベクトルとしては基本ですが六角形というところで。戸惑った受験生は多そうです。
(2) 2 次方程式 A 後半は解と係数の関係でさらりといきます。 $D > 0, \alpha + \beta > 0, \alpha\beta > 0$ を用います。
(3) 集合と命題 AB 有名問題です。幅広くおさえられていたかどうかでしょう。

③ 数列 C

群数列ですが、オリジナリティがあるのと全体として計算が多く、最後までやりきれた受験生は少ないでしょう。群の番号と群内の項数が 1 ずれており、この対処でミスした受験生も多そうです。

④ 微分積分 B

よくある問題で、完答したいです。最後は $\frac{|a|}{12}(\beta - \alpha)^4$ 公式でさらりと解きたいです。

③ データ分析 BC

マ以降は前年度のように抽象的な問題が出題されました。この類は不慣れな受験生が多く出来は悪そうです。

総評

小問集合が 1 問減りました。その分 ③ の数列のボリュームが多かったという印象です。小問集合を 1,2 ミス程度におさめて、④ ⑤ で 8 割程度とりたいです。

2025 年 目標 6 割 5 分

① 小問集合

- (1) 数と式 AB
(2) 指数対数 A
(3) 確率 AB
(4) 三角関数、微分法 B 倍角の公式から cos の 3 次関数とみなせるかというものです。差がついたでしょう。

② 小問集合

- (1) 複素数平面 A 簡単な問題ですが、複素数平面の対策をしていたかどうかが問われました。
(2) ベクトル C ベクトル方程式に触れていればそこまで難しくありませんが、出来は悪いでしょう。
(3) 数列 B

③ 空間ベクトル B

完答したい問題です。処理能力が問われました。

④ 微分積分、ベクトル C

(2)の出来は悪いでしょう。P の座標を変数において、成分表示されたベクトルの内積計算にもちこみます。その後は 4 次式ですが、2 次関数を応用するというものです。とはいえ k が入っていてやりにくいでしょう。

③ 確率分布 B

確率分布が新課程で導入され、やはり出題してきたという印象です。本年は対策していなかった受験生が大半であり、出来は悪かったでしょう。問われているのは平均や分散の性質であり、本問のレベルなら今後完答せねばならない問題となりそうです。

総評

新課程初年度で複素数平面と確率分布が出題されました。これらの対策をどうするか考えねばならないでしょう。

1 小問集合

(1) 場合の数 A

(2) 複素数と方程式 A

(3) 数列 A

(4) ベクトル AB

2 小問集合

(1) 数列 A

(2) 微分積分 AB

(3) 複素数平面 AB 本年も出題されました。基本問題ではあります。どこまで対策していたかです。

3 図形と計量、図形の性質 B

(1)は基本問題です。(2)は、はじめの角のところで差が出そうです。合格者はできていそうだなという印象です。完答を目指したい問題です。

4 いろいろな曲線、図形と方程式 BC

本年は楕円も登場しましたが、楕円の知識はほぼ必要なく、軌跡の経験が大切でした。最後の面積まではできていない受験生は結構いそうですが、軌跡までは求めてほしいです。

3 確率分布 B

本年も出題されました。データの個数は多くないのですが、(1)では数値が汚く戸惑った受験生は多そうです。問われていることは基本的なことではあります。(2)も文字を用いて答えますが、基本問題です。数学 B の確率分布の対策をしっかりとっていたかどうかできっちり差が出そうです。

総評

小問集合はどれも基本的な問題でした。1, 2 ミス程度で切り抜きたいです。後半 3 問もそこまで難しい問いはありませんでしたが、幅広く対策をしていたかが問われました。7 割程度は埋めたいところです。